

---

# ブスはブスなりに恋をしている

桜木 桜花

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ブスはブスなりに恋をしている

### 【Nコード】

N9326P

### 【作者名】

桜木 桜花

### 【あらすじ】

主人公、崎田 夢乃【さきた ゆめの】の兄に頼まれ、敵対する学校や暴走族の組織に顔がばれた夢乃の警護をすることになった、不良五人組。

夢乃の兄、純太【じゅんた】は、自分が暴走族に入っていることを隠していた。が、それが夢乃にばれ、夢乃と純太の仲は悪くなる。五人は夢乃に惹かれ、夢乃を必死で守りながら、純太と仲直りさせようとさせる……。

## 1 警護

私の高校は、何人かの生徒が、学年や学校をケンカで仕切っている。その中に、五人でいつもつるんでいる人達がいる。一応、五人ともモテる。みんな、『EMOTIONS・5』【エモーションズ・ファイブ】と五人のことを呼んでいる。ドラマや映画になった、あの漫画みたいに、もっとマシな名前はなかったのかと、私はつくづく思う。

『EMOTIONS』は、日本語になおすと、『感情』になる。四字熟語で言うと、『喜怒哀楽』。

なぜ、『EMOTIONS・5』なのか。その理由は、五人にある。

まず、『EMOTIONS・5』のメンバーを紹介しておこう。

一人目は、笹野 一途【ささの いちず】。この人は、いつも笑っていて、何か、爽やか(?) っていう感じ。でも、この人が一番蹴りが強いらしい。身長、百八十三センチ。不良の兄によると、一番腹筋がすごいらしい。みんなからの呼び名が、『HEE【ヒー】』。日本語で、『喜』。顔に似合っている呼び名だ。

二人目は、遠野 克巳【とおの かつみ】。この人は、いつも怒っている。と思う。とにかく、目が怖くて、その覇気だけで、他校の不良を黙らせたらしい。身長は百九十五センチで、超筋肉質。がっしりしている。みんなからの呼び名、『ANGER【アンガー】』。日本語で、『怒』。本人も気に入っている。

三人目は、白金 千夏【しろかね ちか】。この人は、甘えん坊目を潤ませて、頼み事をするのが、得意らしい。背は百六十五センチ。一応、男の人と言う感じの体つきはしている。そしてロリ系の顔。でも、ケンカは強い。みんなからの呼び名は、『SAD【サード】』。日本語で、『哀』。

四人目は、若葉 信吾【わかば しんご】。この人は、とにかく、

面倒くさがり。しかも、スケベ。身長は百七十七センチ。少し筋肉がついていて、見た目はチャライ。ケンカも強いみたいで、みんなからの呼び名は、『EASE』。日本語で、『楽』。いつも楽をしているからという理由。単純だな。

五人目は、坂月 風雅【さかづき ふうが】。この人は・・・よく分からない。笑ったり、怒ったりはするが、心から感情を出していないみたいそんな感じがする。身長百八十八センチ。とにかく細い。みんなからの呼び名は『NO【のー】』や、『NOMEN【のーめん】』。意味は、『（感情が）無の男性』と言う意味と、『能面』と言う意味の二つがある。

HEE（喜）、ANGER（怒）、SAD（哀）、EASE（楽）、NO（無）の五人は、全員が表情を英語で表されるので、『EMOTIONS・5』なのだ。

この五人（全員高校一年生）を私がよく知っている理由・・・それは、兄が不良だから。まあ、兄のことも紹介しておこう。ついでに私の自己紹介も。

兄の名前は、崎田 純太【さきた じゅんた】。少し、シスコンが入っているが、ケンカは強くて、頭がいい。感情豊か。身長百八十五センチ。ANGERと一緒に、筋肉質。みんなからの呼び名は、『ALL【オール】』。日本語で『全部』。これは、感情豊かだかららしい。

で、私の名前は、崎田 夢乃【さきた ゆめの】。成績は上のほう。ケンカは強くないけど、度胸はある方。自分的には、身長百五十五センチ。体重は重くて、ぼっちゃり体系。おなかには出ていないけど、太もも（と足）が太くて、後はそれなりに肉がついてる。友達や兄には、『夢【ゆめ】』と呼ばれている。ちなみに、高校二年生。

私は、平凡に、あまり目立たないように、していたんだけど・・・「ねえ、このAクラスに、崎田先輩の妹、いるよね。」

とある日の昼休みに呼ばれた。あの五人だ。この学校は、成績でA・B・Cクラスに分かれている。なぜかやってきた、CクラスのEMOTIONS・5。わざわざ、Aクラスに来なくても・・・。

「崎田は私だけど？」

私が言うと、四人は、ニコツと笑う。一人だけ、真顔だ。

「何？さつさと、用件をいいな。」

私はもろ上から目線でそう言った。すると、HEEが、私を抱きかえた。

「は？何やってんの？おろして。」

私がそう言うと、HEEはすごく笑った。

「やっぱり、CLUMSYじゃなくて、NATURALでいいんじゃないの？」

HEEがそう言った。『CLUMSY』は『不細工』と言う意味。

『NATURAL』はたしか、『天然』だったと思う。個人的に、呼ぶなら、『不細工』のほうがいい。『天然』とは、死んでも言われたくないね。私の縦巻きパーマは、天然だ。しかも、髪の色も天然茶髪。だから、小学校のときは、『天然ちゃん』とずっと呼ばれていた。

「呼ぶなら、苗字か名前。英語で呼ぶなら、『CLUMSY』でいい。」

私が言うと、HEEはまた笑った。

「CLUMSYでいいの？じゃあ、自己紹介をするね。今日から、CLUMSYの警護を頼まれた、笹野 一途です。HEEって呼んで。」

HEEはそう言うと、ニコツと笑って、私を下ろした。

「同じく、お前の警護を頼まれた、遠野 克巳。ANGERだ。」

「同じく、白金 千夏です。SADって呼んで。」

「同じく、若葉 信吾。EASEです。よろし。」

「同じく、坂月 風雅。風雅でいい。」

風雅がそう言うと、みんなは風雅を見た。

「お前はNOだろう。」

HEEが笑いながら言った。風雅は無視をして、そつぽを向いた。  
「わかった、風雅って呼ぶね。それより、私が聞きたいのは、何でこんな状況になっているか。」

私が言うと、四人は笑った。

「ALLさんから、頼まれたんだよ。」

HEEが言った。私は嫌な予感がした。

「お兄ちゃんが？もしかして、敵対する学校に、私の顔がばれたとか？いつも、あの人が一緒にいると、よくあるんだけど。」

私が言うと、五人全員がうなずいた。

「しかも、敵対する学校、全部にばれたんだ。」

HEEが言うと、ANGERが私の手を後ろ手につかんで、そのままお兄ちゃんのところへ連れて行かれた。

「痛い、痛い！」

私が言っても、ANGERは放そうとしない。いつのまにか、お兄ちゃんの教室の前にいた。お兄ちゃんは三年のAクラス。

「ALLさん！夢乃さんを連れてきました。」

HEEが言うと、お兄ちゃんのことを呼ぶ。

「よ、夢乃。」

お兄ちゃんが言うと、私に近づいてくる。

「何で、私の警護がこの五人なの？私、WHITEさんがいい。それか、AMUSINGさん。」

私が言うと、お兄ちゃんは首を横に振った。

WHITEさんとは、お兄ちゃんの相棒で、Aクラス。名前は、勝篠 白也【かつしの しのや】。頭がよくて、スポーツ万能で、スタイルが良くて・・・すごくカッコイイ人。身長百八十センチくらい。名前が白也だから、『WHITE【ホワイト】』という呼び名なのだ。

AMUSINGさんは、風雅のお兄さんで、Aクラス。名前は坂月 翔雅【さかづき しょうが】。超優しくて、頭がいい。お兄ち

やんと同じクラスにいる。スポーツは野球が得意で、たまに勉強も教えてくれる。身長、百八十五センチ。『AMUSING【アミュージング】』は『面白い』と言う意味。

「白也も翔雅も、お前と学年が違うから、帰る時間が違ったら困るだろう。いつ襲われるか分からないんだから。」

「この三人は、クラスが違うでしょう！」

「こいつら、次のテストでAクラスはいるから。」

お兄ちゃんがそう言った。すると、風雅が私の肩を叩いた。

「心配してると思うけど、俺らは、大丈夫だから。」

「次のテストって・・・無理でしょ！Cクラスなのに。CクラスからBクラスに入るだけでも、難しいんだよ！」

私がそう言うと、風雅は無表情で、私の頭をなでた。

「俺は頭がいいんだ。入ろうとしたら、簡単に入れる。たぶん、信吾以外の奴らも全員。」

風雅はそう言うと、他の四人を見た。

「お前ら、Aクラスに入れよ。」

「了解！」

お兄ちゃんに言われて、五人はすぐにうなずいた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9326p/>

---

ブスはブスなりに恋をしている

2011年1月9日04時01分発行